

東京都講演会  
高齢化がもたらす社会病理

# 認知機能の低下に伴う高齢者 の問題行動とその対応

桜美林大学老年学総合研究所

鈴木隆雄

# 認知症の定義

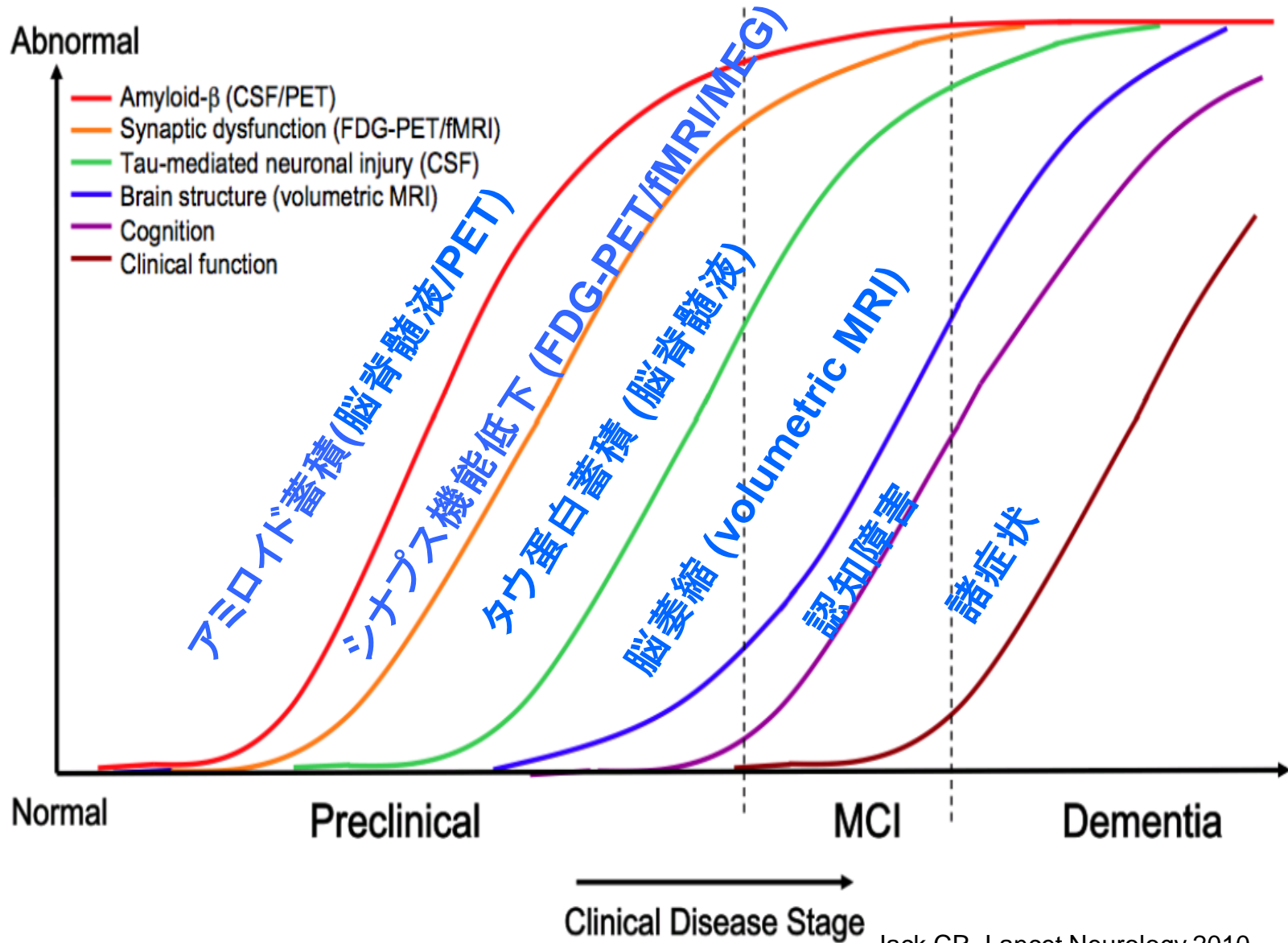
記憶と  
他の認知障害が  
重なっている

- 物忘れが激しい
- 言葉が出てこない
- 注意力が続かない
- 段取りが悪い など

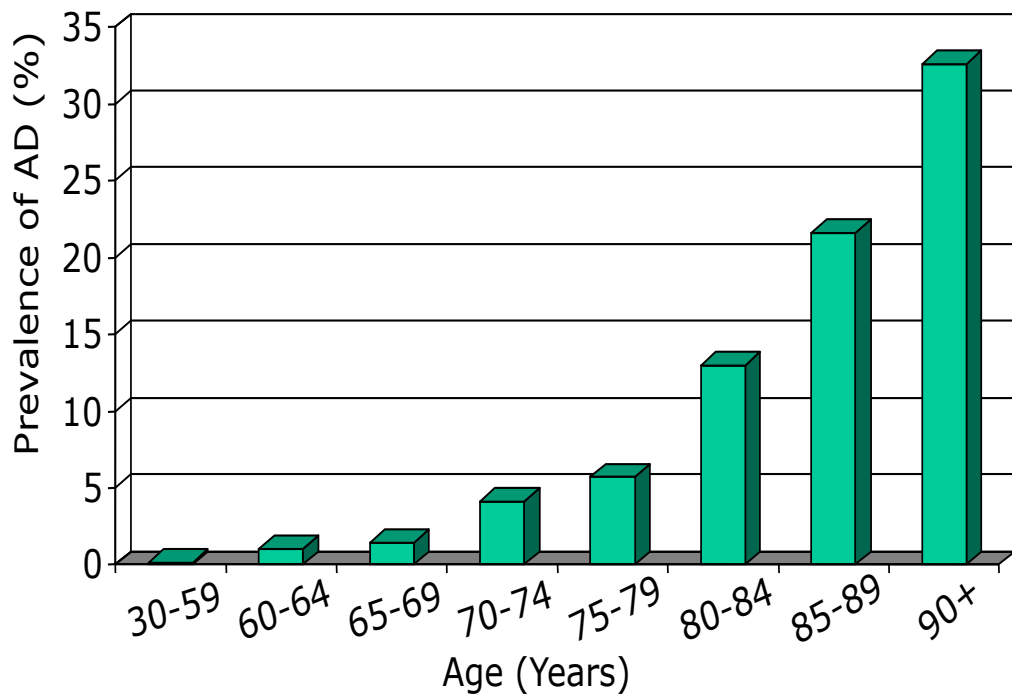
1年の間に  
悪くなっている

職業生活や  
社会生活に  
支障が出ている

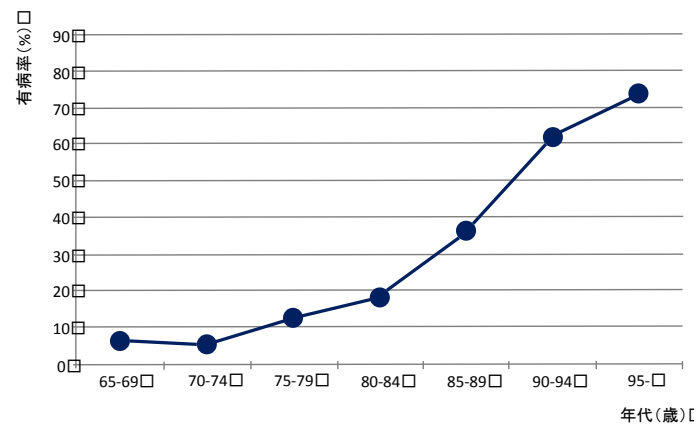
# アルツハイマー病進行の指標



# 加齢と認知症有病率



Source: The prevalence of AD in Europe: A collaborative study of 1980-1990 findings (EURODEM)



厚生労働省: 第19回 新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム. 朝田隆構成員提出資料(平成23年7月26日)

# 家族へのアンケート調査から得られた事例からみた 問題行動(トラブル)の分類(試案)

## A 自宅外で、命に関わる問題を引き起こしうる問題行動

- ① 徘徊・行方不明 ② 公共交通機関や自動車での事故

## B 小売店での問題行動

- ③ 万引き ④ 不要品の購入 ⑤ その他、お店での問題

## C 金銭関係での問題行動

- ⑥ 詐欺の危険 ⑦ 財産管理の困難 ⑧ 現金管理の困難

## D 自宅内での問題行動

- ⑨ 家事が困難 ⑩ 家事が困難(火の元) ⑪ 身の回りのことが困難

## E 暴力・暴言

- ⑫ 暴力・暴言(家族へ) ⑬ 暴力・暴言(介護スタッフへ)  
⑭ 暴力(他の利用者へ) ⑮ 暴力(近隣の人へ)

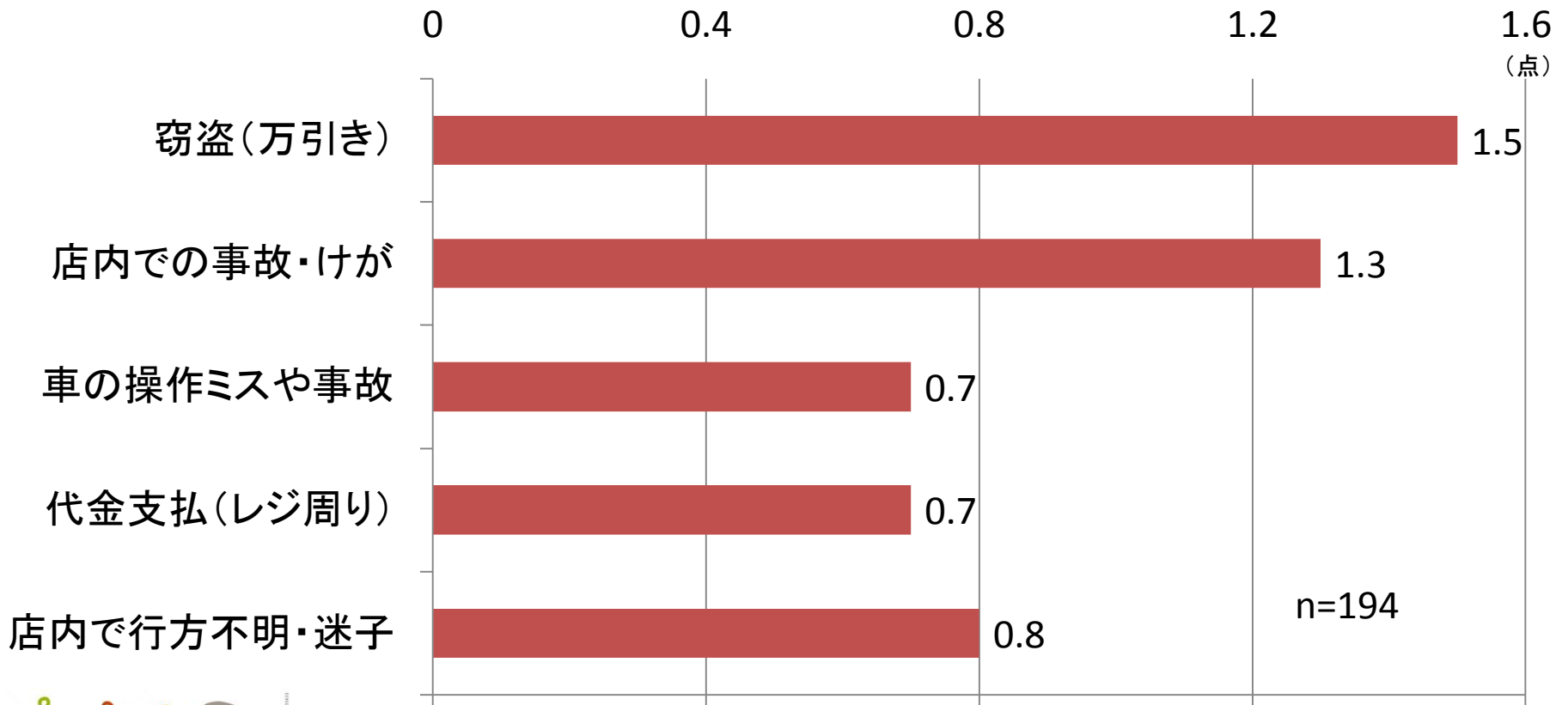
## F 暴力以外の行動・心理症状

- ⑯ 物盗られ妄想 ⑰ 幻覚・妄想(物盗られ以外)  
⑱ 他の行動・心理症候(自宅内) ⑲ 他の行動・心理症候(近隣とのトラブル)  
⑳ 介護拒否

## G その他

- ㉑ 親族内のトラブル ㉒ その他

# 高齢者に多いトラブル(小売店)



(H27. NCGG)

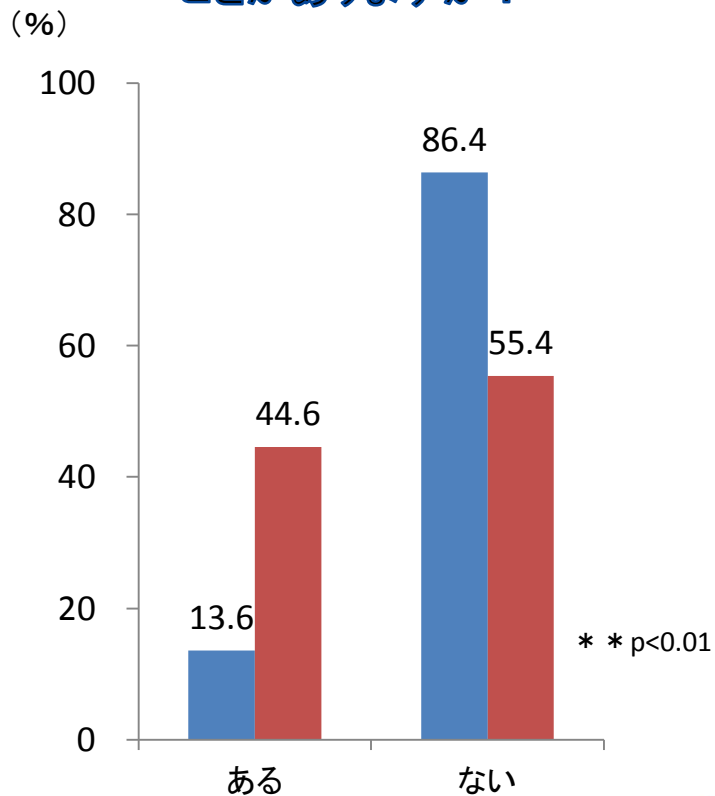
# 高齢者の万引き

(東京都「高齢者による万引きに関する有識者検討会報告書」)

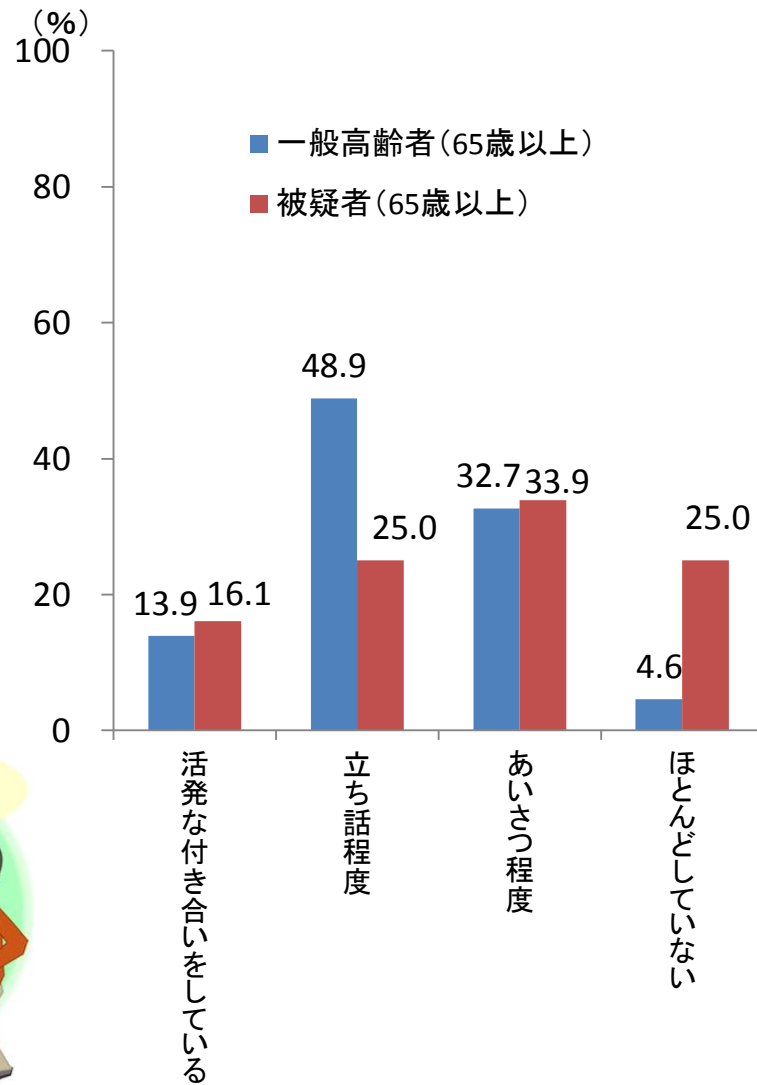
- ✓ 近年の万引きの特徴は少年の万引きの割合が減少する一方で、高齢者の万引き割合は増加している。
- ✓ 万引きは再犯者率が高く、特に高齢者では万引きで逮捕された者のうち約60%が過去に万引きを含む犯罪歴を有している。
- ✓ 本研究では一般高齢者と比較して万引き高齢被疑者との比較、特に認知機能における問題点を分析した。

# 近隣付き合い

あなたは、一日中誰とも話さない  
ことがありますか？



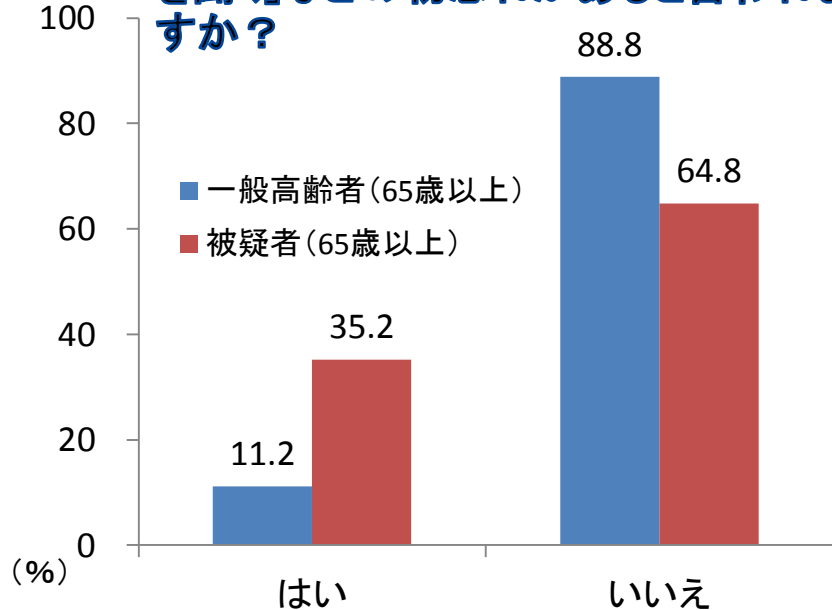
あなたは、近所付き合いを  
どのくらいしていますか？



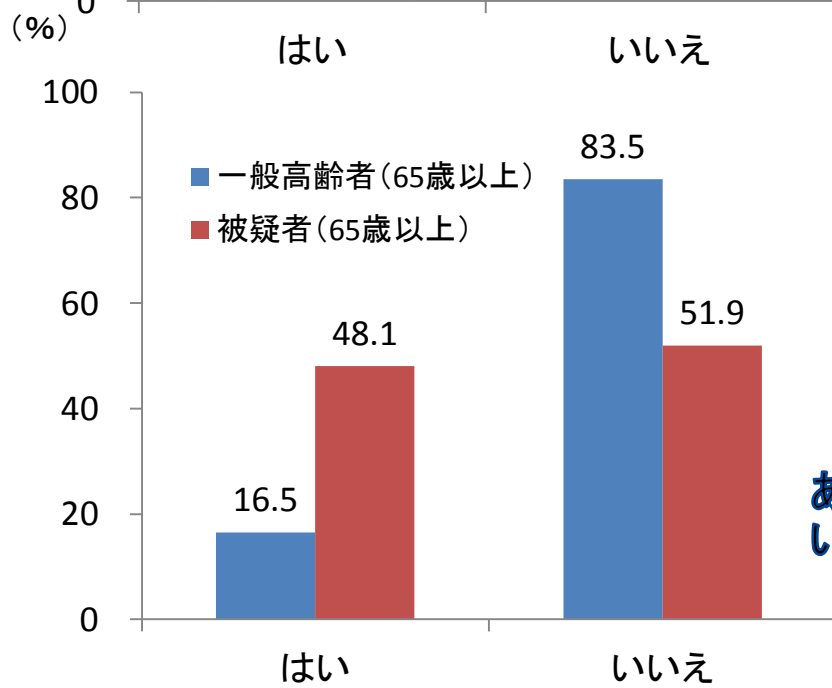
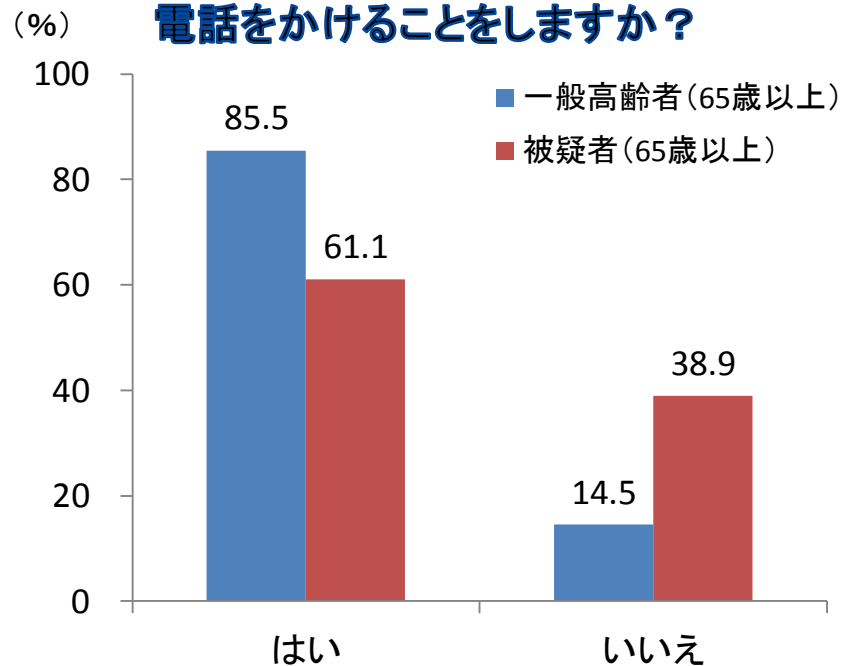


# 認知機能

(%)  
**あなたは、周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか？**



**あなたは、自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしますか？**

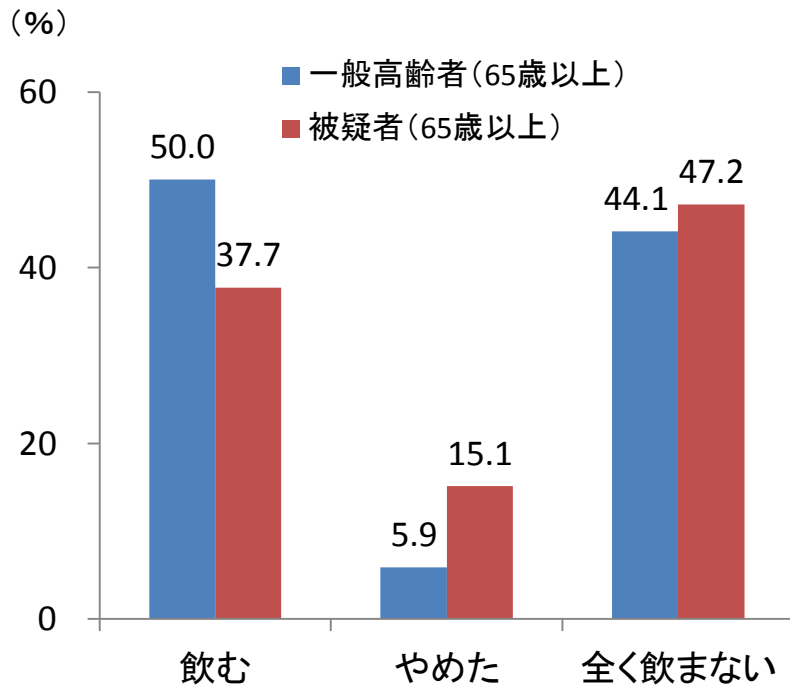


**あなたは、今日が何月何日か分からない時がありますか？**

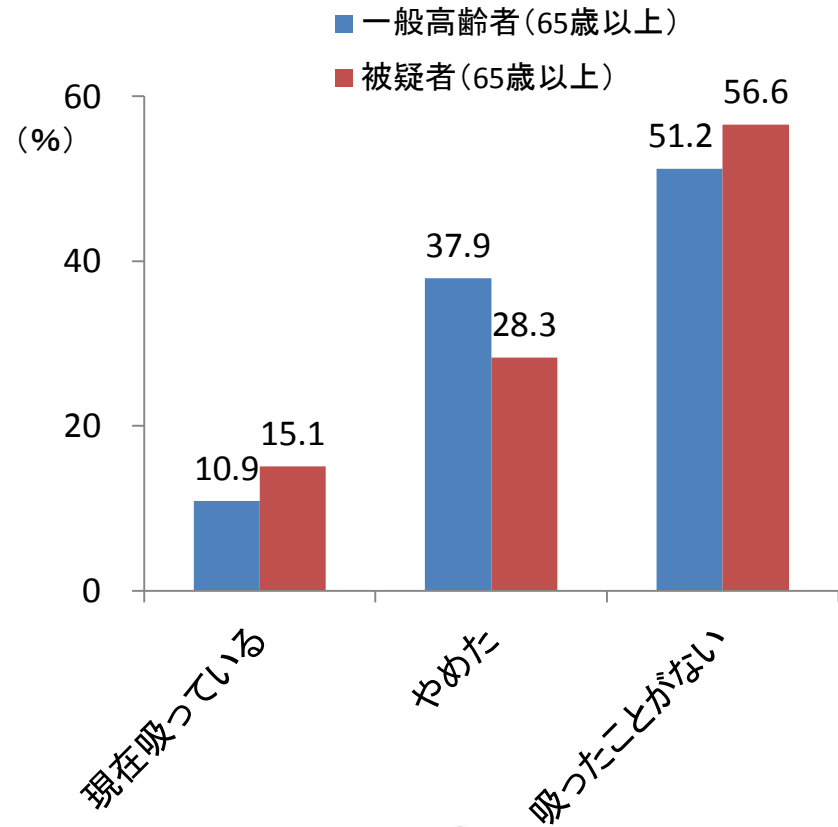


# 飲酒と喫煙

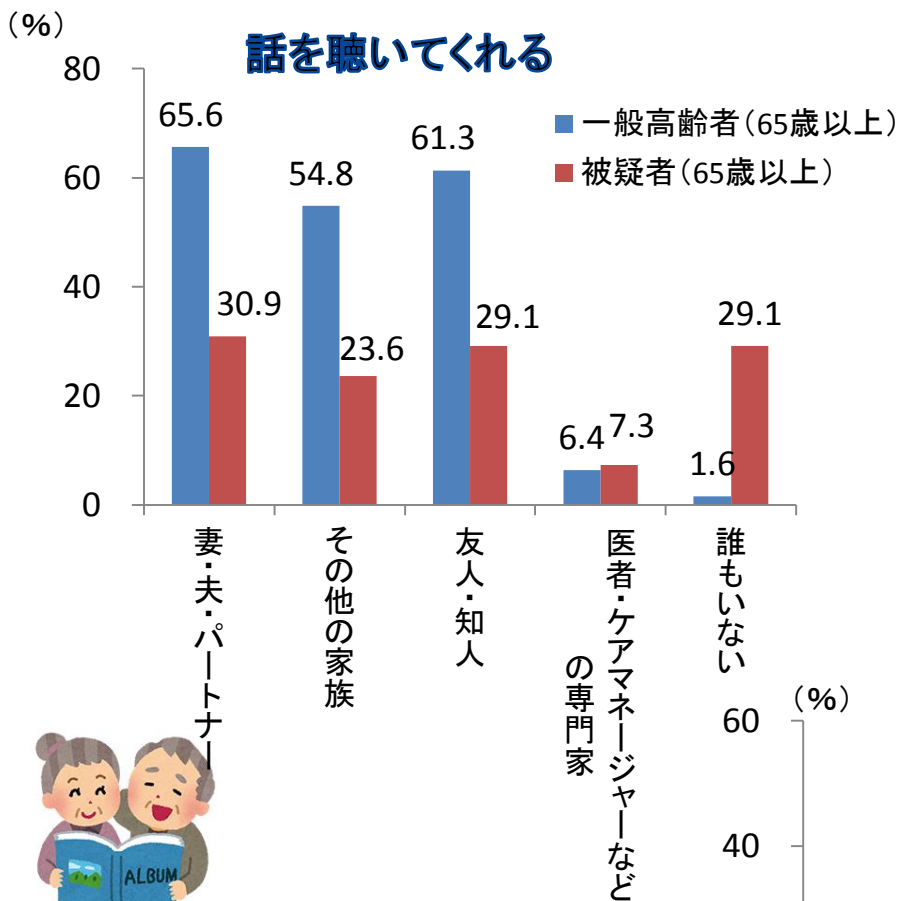
## あなたは、お酒を飲みますか？



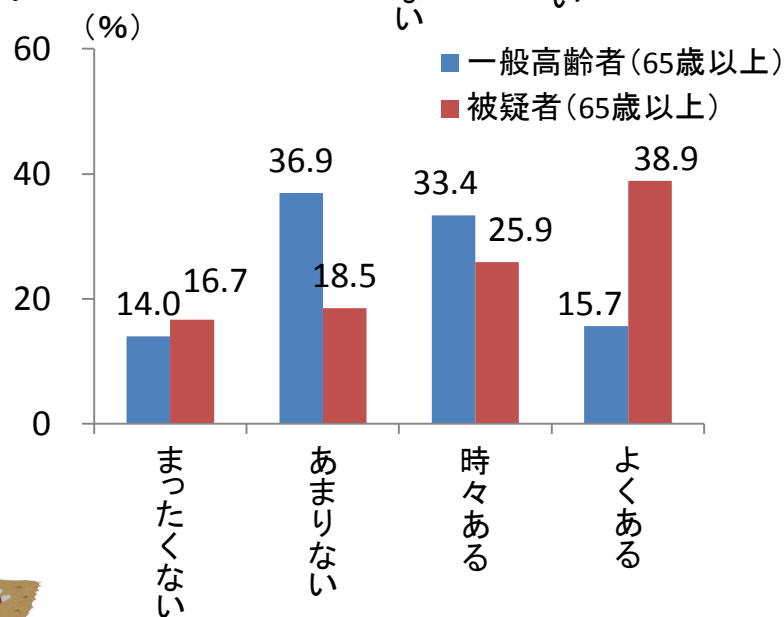
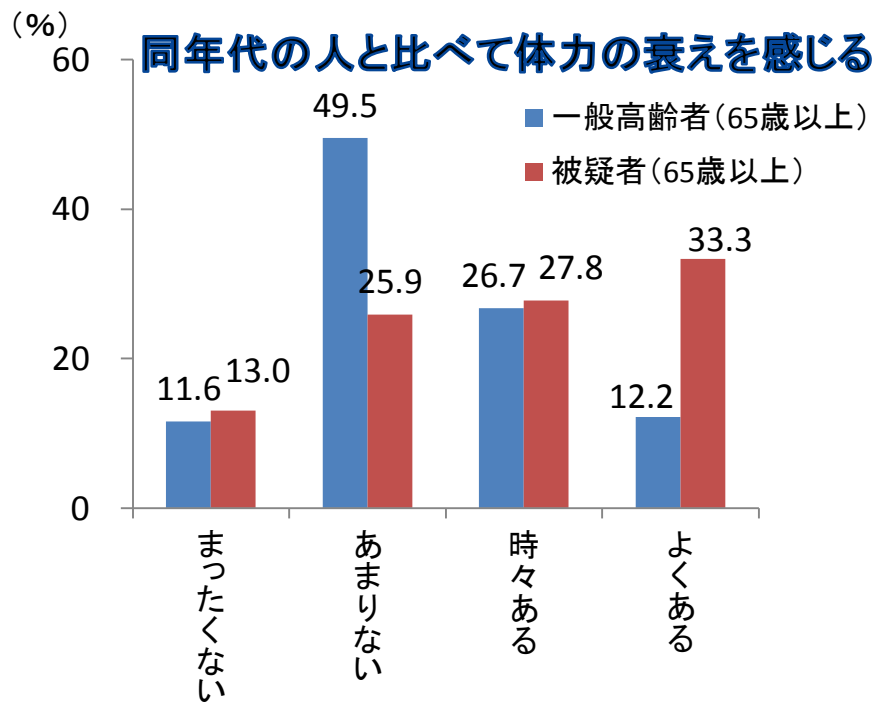
## あなたは、たばこを吸いますか？



# 支援してもらっている人

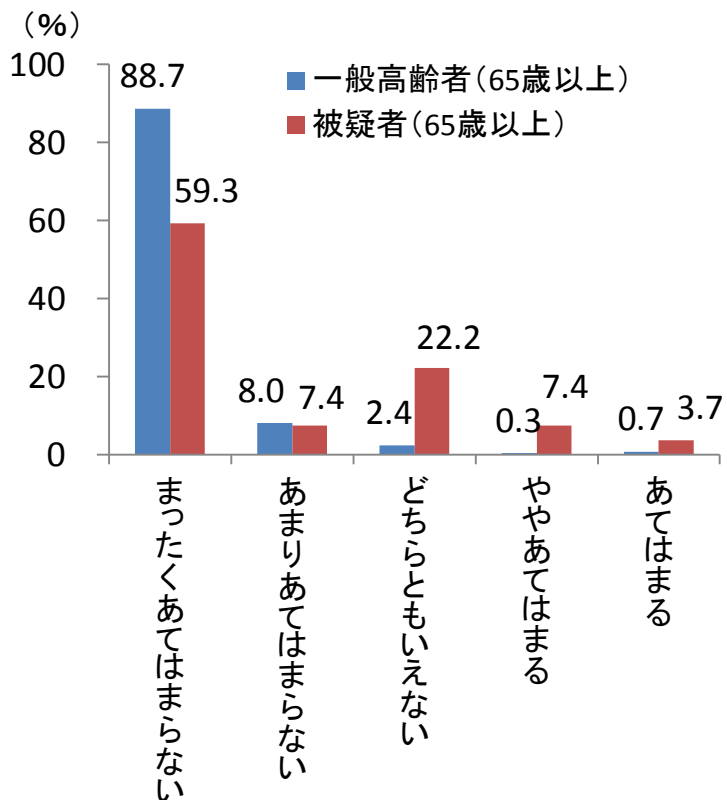


将来、生活が苦しくなるのではないかと不安だ

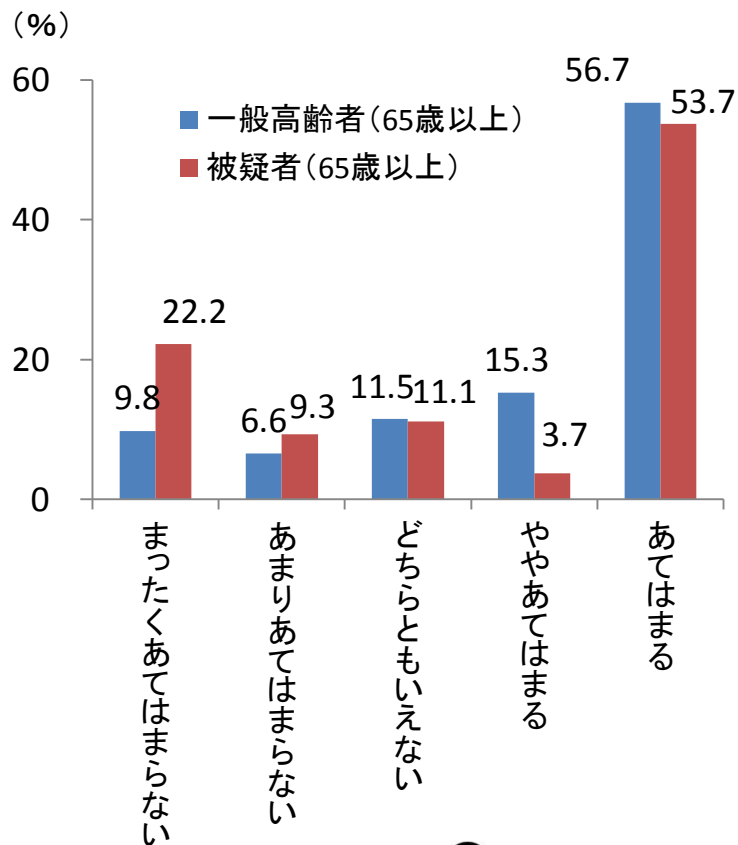


# セルフコントロール

捕まらずに悪いことがどれくらいできるか、試してみたい



どんなに腹が立っても、暴力はふるわない



# 「万引き」に関連する要因 (多重ロジスティックモデル)

項目	OR	SE	(95%CI)
高いセルフコントロール	1.01	0.17	(0.73-1.41)
低いセルフコントロール	5.00**	2.44	(1.93-12.99)
認知機能低下	2.05	0.79	(0.96-4.36)
知的能動性低下	2.40	1.40	(0.77-7.55)
規則意識	1.06	0.07	(0.94-1.21)
教育年数	0.67**	0.10	(0.50-0.89)

\*\* : P<0.01

「万引き」に対して「認知機能低下」や「知的能動性の低下」は有意な関連性は認められなかった。しかし「低いセルフコントロール」や「教育年数」は「認知機能低下」に対する危険因子でもある。したがって「万引き」も「認知症(認知機能低下)」も共通の危険因子が関与している可能性が高い。特に「教育歴」が重要と思われる。

# 認知機能と万引きの関連

要 因

結 果

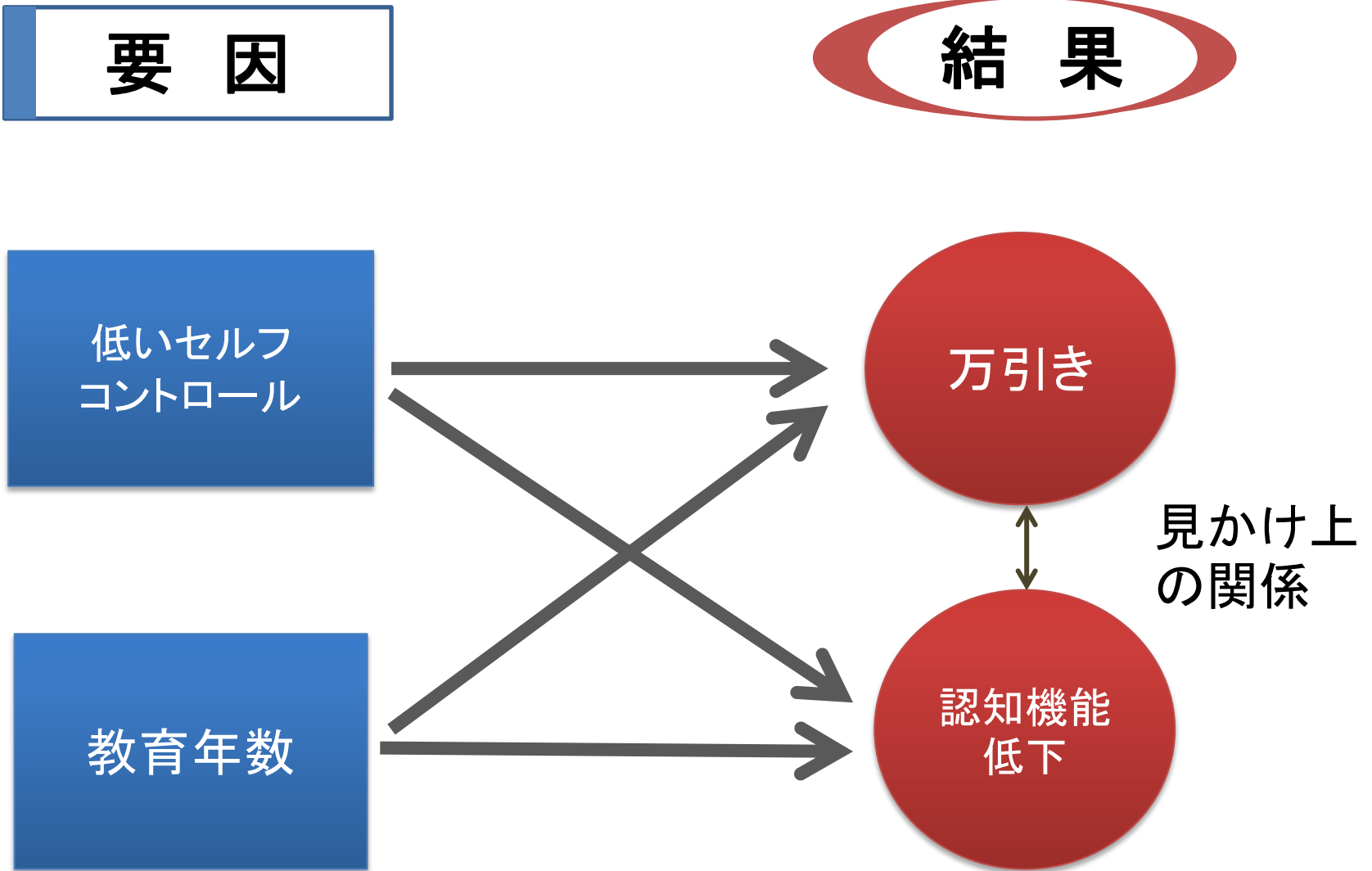
低いセルフ  
コントロール

教育年数

万引き

認知機能  
低下

見かけ上  
の関係



# 米国で認知症有病率が低下

## フラミンガム研究およびHRS研究などで認知症有病率の低下が報告

人口の高齢者により認知症患者が増加すると考えられているが、米国など高所得国では、年齢特異的認知症リスクは過去25年間で低下している可能性も示唆されている。例えば、**Framingham Heart Study (FHS)**では、1977年から2008年の30年間で認知症の有病率が10年当たり約20%低下したと報告されている。しかも、認知症有病率の減少は、学歴が高卒以上の者でのみ報告されたという(*N Engl J Med* 2016; 374: 523-532)。

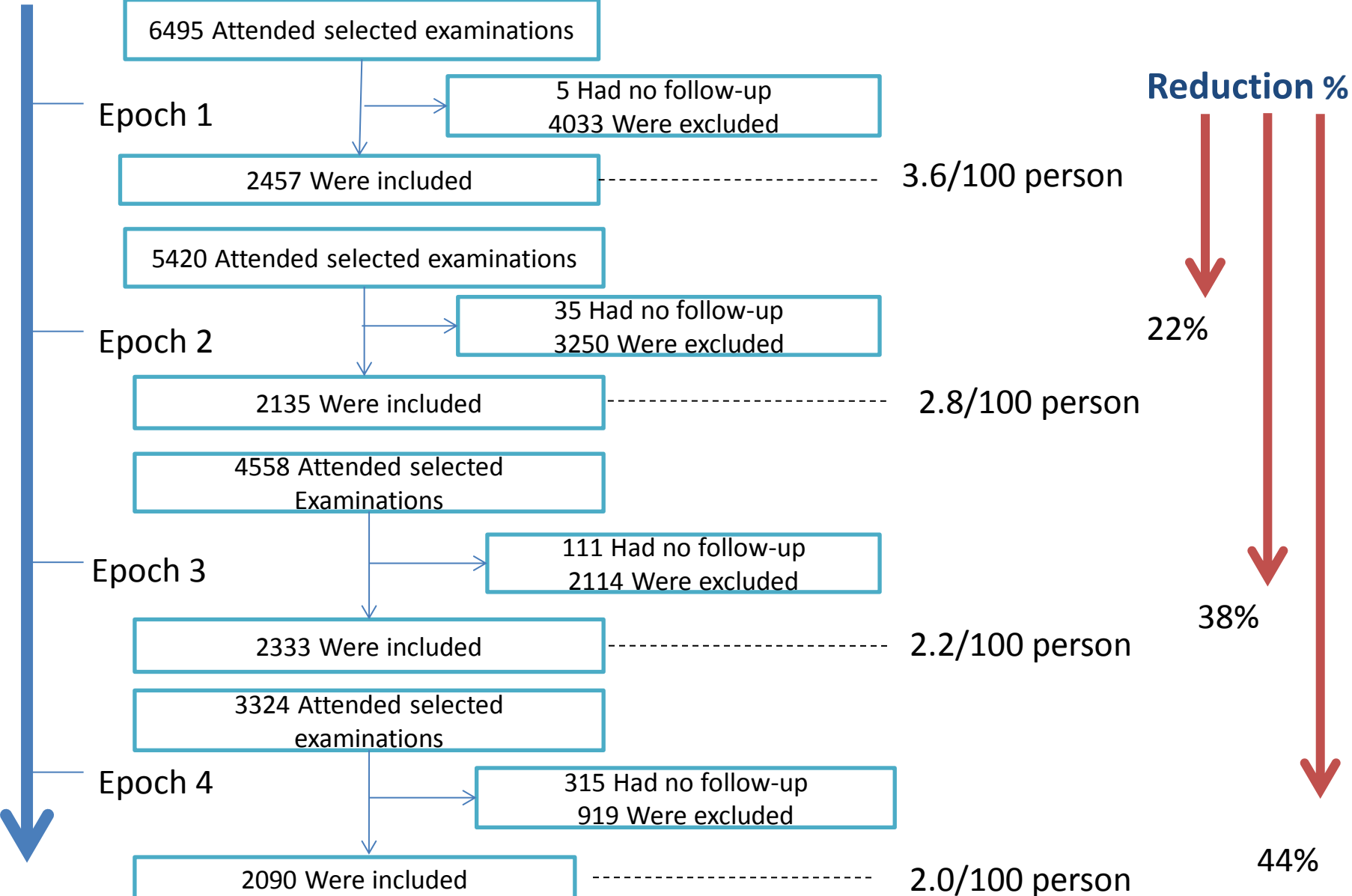
また、米国の65歳以上を代表する地域集団の経時的調査である**Health and Retirement Study (HRS)**のデータを用いて、2000年(1万546例)と2012年(1万511例)の認知症の有病率を比較した結果からも有病率低下が報告された(*JAMA Inter Med* 2017; 177: 51-58)。対象の平均年齢は2000年が75.0歳、2012年が74.8歳で、女性の割合はそれぞれ58.4%、56.3%であった。

認知症機能の評価は、電話インタビュー用に開発された独自の評価スケールを用いて行い、正常、cognitive impairment-no demeneta (CIND)、認知症の3つに分類した。

その結果、認知症の有病率は2000年の11.6%から、2012年には8.8%(年齢および性で標準化後は8.6%)へと有意な低下を示した( $P < 0.001$ )。



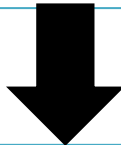
# Incidence of Dementia over Three Decades in the Framingham Heart Study



(Satizabal SL. Et al, New England J. Med, 2016)

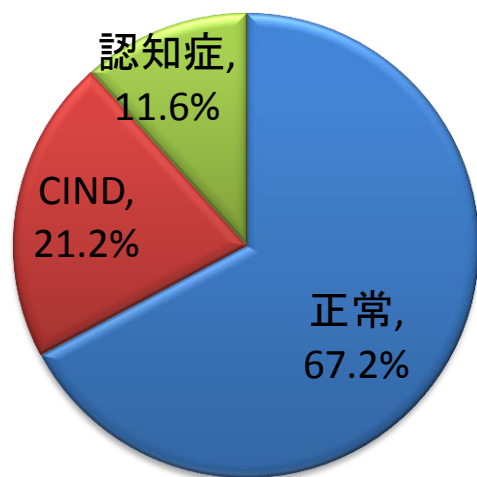


# Health & Retirement Study (HRS)

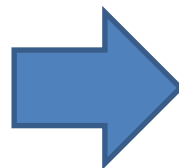
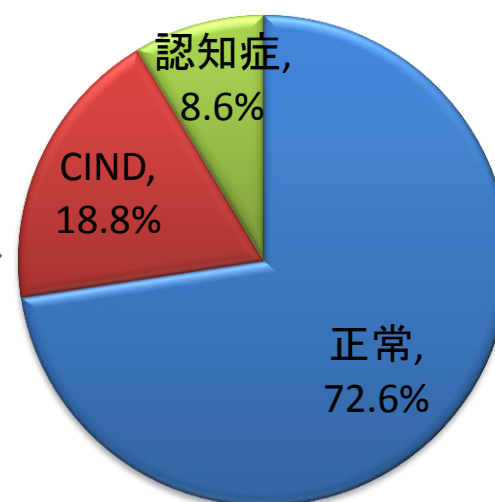
	2000年	2012年
対象者数 (65歳以上)	10,546	10,511
平均年齢(歳)	75.0	74.8
女性割合(%)	58.4	56.3
		
認知症有病率 (性・年齢標準化後)	11.6%	8.8% (8.6%)

# HRS:2000年と2012年における認知機能カテゴリー

2000年

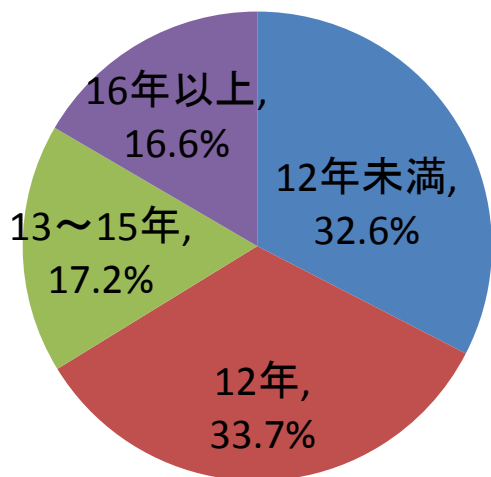


2012年



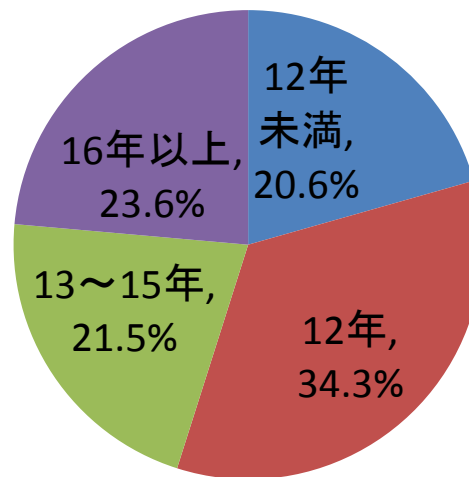
# HRS:2000年と2012年における教育年数

2000年



平均 11.8年

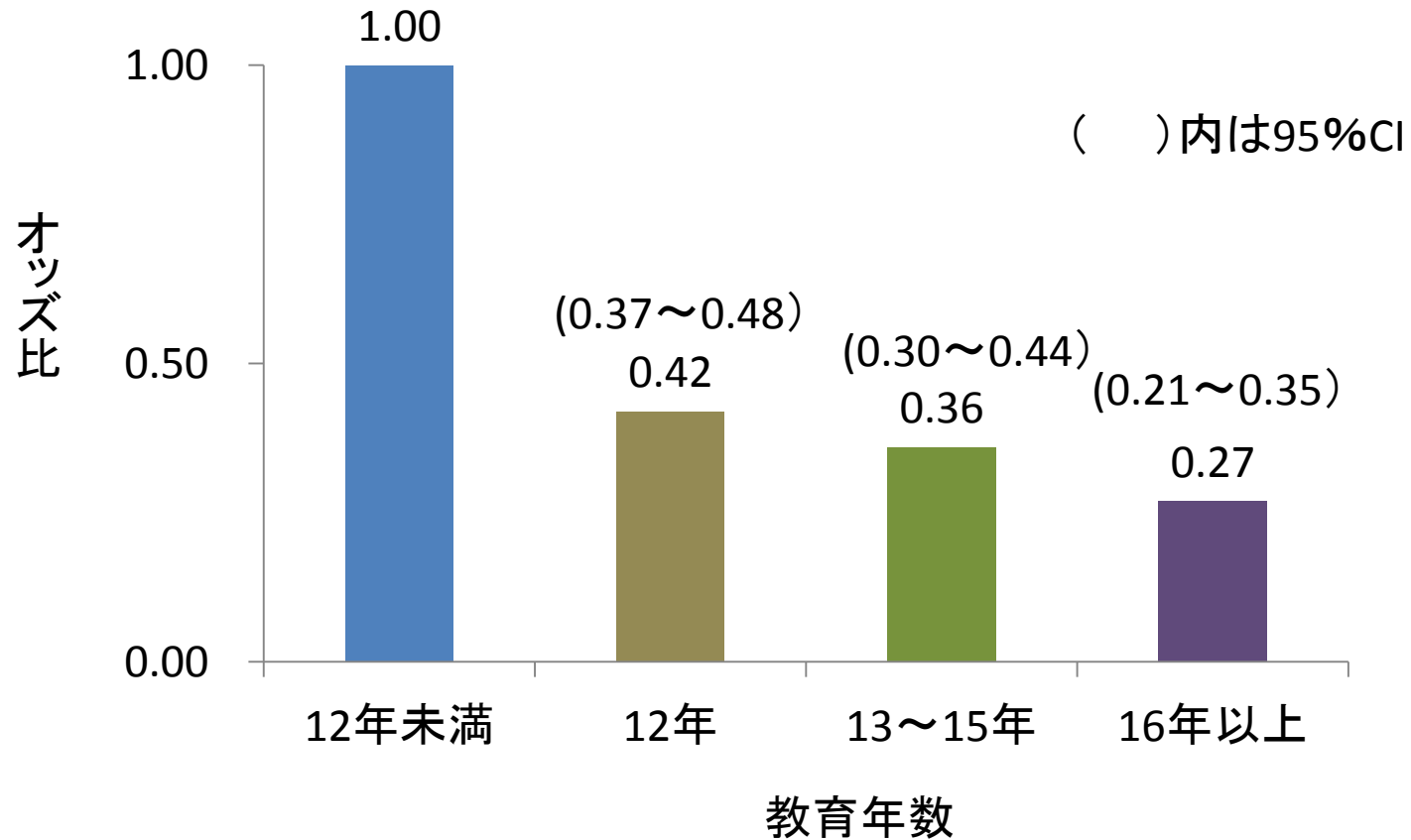
2012年



12.7年\*

\* P<0.001

# HRS:教育年数別に見た認知症現象のオッズ比(95%CI)



(JAMA Intern Med 2017; 177: 51-58 を基に作成)



PREVENTION

# Activity is the best medicine

Can exercise, social interaction and the Mediterranean diet really help to keep the cognitive decline of Alzheimer's disease at bay?

Deweerd S, *Nature* 2011

Any type of exercise is really effective for prevention of cognitive decline among the elderly, particularly living in the community.

